様式１－３（統一栽培暦様式）　　（令和７年産）

もっと安心農産物　こかぶ栽培暦（秋どり栽培）

ＪＡいちかわ船橋地区もっと安心農産物生産グループ

１．土作り

完熟堆肥を施用する。（1,500ｋｇ）堆肥の補助資材としてアゾミンを使用する。

２．施肥　土壌診断にもとづく施肥量の遵守（化成肥料由来の窒素成分量6kg／10a以内）

	肥料名	保証成分（%）	施肥量上限
基　肥	スーパーマイルド086	10－8－6（有機態窒素6.1）	140ｋｇ／１０ａ
	有機アグレット673特号	6－7－3（有機態窒素6）	100ｋｇ／１０ａ
	苦土重焼燐	0－35－0 苦土4.5	60kg／１０ａ
	苦土セルカ２号（有機石灰）		60kg／１０ａ

※有機アグレット673特号は、スーパーマイルド086で窒素量が不足の場合施用する。

３．防除　農薬使用成分回数は合計5回までです。（エスマルクＤＦ・スピノエース顆粒水和剤は化学合成農薬に含まれない。）

（薬剤名後（ ）内数字は、化学合成農薬の成分数を示す。）

月	管理作業	病害虫の発生	薬剤名	希釈倍数・処理量	対象病害虫	備考（耕種的防除の実施等）
８月上旬	播種↑	アブラムシ↑	Ｄ－Ｄ　（1） ﾊﾞｽｱﾐﾄﾞ微粒剤（1） ディ・トラペックス油剤（2）のいずれかを使用する	20ﾘｯﾄﾙ/10a 30kg/10a 30ﾘｯﾄﾙ/10a	ネグサレセンチュウ 根こぶ病 萎黄病	太陽熱消毒をする。 品種：もちばな 恋ばな 夏の雪 ゆきわらし 防虫ネットでトンネル被覆する。 白さび病の防除にはランマンフロアブル2,000倍（収穫３日前３回）を散布する。 ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞの防除は、発生初期にエスマルクDF（0）1,000倍（前日迄）を散布する。 収穫後、作物残渣はきれいに処理して病害虫の発生源をなくす。
中旬	｜	｜	フォース粒剤（1）	4kg/10a 播種時１回	キスジノミハムシ	
下旬	｜	｜	ユニフォーム粒剤（2）	9kg/10a 播種時全面土壌混和	白さび病	
９月上旬	｜	｜	モスピラン顆粒水溶剤（1）	2,000倍 （収穫21日前１回）	アブラムシ類	
中旬	｜	｜	ハチハチ乳剤　（1）	2,000倍 （収穫７日前１回）	キスジノミハムシ コナガ	
下旬	｜	｜	ランネート45ＤＦ（1）	1,000倍 （収穫7日前2回以内）	アオムシ アブラムシ	
10月上旬	↓	↓	アファーム乳剤（1）	2,000倍 （収穫３日前２回）	コナガ	
中旬	収穫	ヨトウムシ↓	プレバソンフロアブル5（1）	2,000倍 （収穫前日３回）	コナガ	
下旬	｜	｜	ｽﾋﾟﾉｴｰｽ顆粒水和剤（0）	5000倍 （収穫前日３回）	ハモグリバエ	
11月上旬	｜	白さび↑	アルバリン顆粒水溶剤（1）	2,000倍 （収穫３日前２回）	アブラムシ類 キスジノミハムシ	
中旬	｜	｜				
下旬	↓	↓				

☆みんなで守ろう生産基準